

在宅医療講演会に係る希望テーマ・講師の調査結果一覧(その他意見)

【資料第3号 別紙】

	希望講師	理由	希望テーマ	理由
1	石垣 泰則 部会員	(一般)日本生活期リハビリテーション医学会の理事を務め、在宅で療養する患者の生活期のリハビリテーションに造詣が深い。	在宅における生活期のリハビリテーションについて	病気を病院で治療して自宅に帰った患者さんや、疾患やフレイルによる障害で、生活期におけるリハビリテーションを必要とする方が増えている。生活期のリハビリテーション医療の理解と啓発を促すことを目的とする。
2	石垣 泰則 部会員	神経難病の患者さんを対象とした在宅医療専門診療所で、長年にわたり臨床に携わった経験が豊富なため。	神経難病の在宅医療について	高齢化社会において、高齢の神経難病患者も増えてきている。稀な疾患と考えがちであった神経難病も、身近なものになってきている。文京区民の皆様に、在宅で療養する神経難病の患者さんを理解していただくために有意義と感は得る。
3	吉田 大介先生(東京在宅クリニック院長)	長年、在宅緩和ケアに携わってきたエキスパート。緩和ケア領域における造詣の深い先生です。	在宅緩和ケア	苦痛を持つすべての在宅療養患者に共通する「緩和ケア」は、在宅医療において普遍的に必要な領域である。癌をはじめ苦痛の大きい病気であっても、在宅で穏やかに生活ができることを啓発することを目的とする。
4	弓野 大先生(ゆみのハートクリニック)	循環器領域の在宅医療のエキスパート	在宅における循環器疾患・心不全管理について	高齢になって心臓に初疾患を抱える在宅患者は多い。近年、在宅医療の現場においても使用できる循環器疾患治療薬が承認されているため、アップデートの情報は有意義である。
5	文京区社会福祉協議会の「ユアストーリー」担当 田渋 あづさ先生(こころのひと休み保健室) 斉藤 知江子先生(こころのひと休み保健室)	文京区のACPの具体的な相談業務に携わって下さっています。	人生のエンディングを共に考え寄り添うには	「いざという時」を突然迎え混乱される本人家族への接し方を実践的に学ぶため
6	大河内 章三先生	介護、医療の専門職に向けたACP導入実践研修から市民啓発まで幅広く展開し、ケアマネジャーとして現場での導入実践経験も豊富とのこと。実際の導入事例や経験からの問題点等解説していただけるとは思いません。	ACPを活用した医療と介護の連携	ACPを学ぶという事は平原先生の都合がつかなくても変えなくて良いと思います。人生の最終段階において、どのような医療・介護を受けるかという意思決定をどう支援するのか、そしてそれをどの様に本人、家族、医療、介護が連携して叶えていき、望む最期を迎えるための支援をするのか。ぜひ学びたいです。
7			医療にかかわるお金の話	病院(クリニック含む)や薬局への支払いは、領収書をもってもよくわからない項目がある。身近では往診と訪問診療の費用の違いや様々な制度(公的医療制度、難病医療費助成制度、障害者医療制度等)により負担が変わったり、医療費控除についても知らないことがある。医療に関連するお金について知識を得たい。